

Container

— 武田竜真個展 —

さまざまな種類の物があり、それらは、場所から場所へと動くことで、自らの価値をさまざまなかたちで手にしたり失ったりする。物は、場所をさまざまに動かし、そして、その場所の帰属と記憶の再構成に関わっている。

ジョン・アアリー『モビリティーズ(2015)』

人がつくり出す物はあくまでも人の「器(= Container)」であり、また、その人自体もその器の一つであるという考察を試みたい。古代より人の生活に根付いた信仰から世界各地でつくられたイメージは、その時代や場所をうつし出す器としての機能を具えている。それらイメージは移動を繰り返しながら変容し、時間をかけて遠くの文化、思考や想いを運んできた。そして、様々な価値観を受け入れながら新しいイメージをつくり続けてきた人もまた器であり、人の営みとは世界を動く器から器への移動の連続から成り立っているのかもしれない。新型コロナウイルスの世界的な同時流行は、現代において物や人の移動がどれほど社会の根幹を成しているかを証明したと言える。そのような世界を運ぶ器の一端を提示できたら幸いである。

武田竜真

オープニングイベント

< 第一部 >

オープニングアーティストトーク
武田竜真 × 原田真紀(はらだ・まき)

< 第二部 >

熊現こぼれ話
武田竜真 × 園田昂史 × 宮本華子

2022.9.4(日)

第一部 13:30-15:00 第二部 15:30-16:15

定員15名 要事前申し込み 入場無料

< 申し込み方法 >

メール件名を「武田竜真トーク参加希望」とし

本文に以下を明記の上

kumamotomoto@gmail.com

までお送りください。

① 参加者氏名 ② 参加人数 ③ 代表申込者電話番号



武田 竜真

TAKEDA Tatsuma

1988年熊本県天草郡生まれ、ベルリン在住。

隠れキリシタンの地のひとつである天草で生まれ育った背景から、信仰や文化の移動と変化、またそれらを運ぶ/受け入れる人の営みに関心を寄せる。人類学的視点を介在させ、歴史や美術史への再解釈を行いながら、絵画、立体、インスタレーション、映像といった様々なメディアを用いて、今日の多様な世界が内包する共通言語を探索する。主な展示に「コレクション展 1 Inner Cosmology」(金沢21世紀美術館/2021)、「VOCA展 2021」(上野の森美術館/2021)、「Chronicle」(Kunstquartier Bethanien /ベルリン/2019)など。



原田 真紀 (インディペンデント・キュレーター)

1973年福岡生まれ、鹿児島在住。

田川市美術館は福岡県内の美術館勤務を経て、現在フリーで活動中。近年の主な展覧会企画「生きる私が表すことは、鹿児島ゆかりの現代作家展」長島美術館(2021)、「ARE WE HAPPY?アーティストと探るしあわせのありか」zenzaiマージナルギャラリー(2022)他。

共同企画

本展と同時に、熊本市現代美術館と福岡県大川市で関連展示が開催されます。詳細についてはそれぞれのホームページをご覧ください。

熊本市現代美術館開館20周年記念

Our Attitudes

2022.8.28(日)~10.30(日)

熊本市現代美術館

ギャラリーⅢ、井手宣通記念ギャラリー

AIR motomoto プレゼンツ

— 園田昂史・武田竜真2人展 —

2022.9.13(火)~9.25(日)

大川市立清力美術館

アクセス

AIR motomotoの所在地はグリーンランドから、車で約3分程度、九州産交バス・荒尾駅発5番バス野中(荒尾)バス停より徒歩1分です。

人類が様々な境界線を越えて移動することに伴い、変容しながら新たな地で受容されていくモノやコト、概念。

武田竜真は人類学や歴史学の見地からこのテーマにアプローチし、

物事の本質や人々が共有している価値観について、問いを投げかける作品を発表している。

2021年より武田が手がけている《Container》シリーズは、移動のかたちそのものだ。

グローバル化の加速する今世紀、人やモノの移動にかかる時間と距離は確実に短くなっている。

望まれるのは早くて確実な移動、できれば直送。

そのためには、頑丈な箱と衝撃から中身を守る緩衝材が欠かせない。

《Container》に登場するのは、長距離輸送にも耐えられる木製のクレートと発泡スチロール製の緩衝材である。

さて肝心の中身はというと、どうやら姿が見当たらない。ぽっかりと穴だけがあいている。

そのクレート越しの向かいの壁には、ひとつの像が結ばれている。

立ち現れたイメージを、武田が示唆する中身の無い箱と移動の関係を、私たちはどのように受け取るのだろう。

岩崎 美千子 (熊本市現代美術館・学芸員)

感染対策

○入館時に検温をさせていただきます。※37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りさせていただきます。
○来館される際は、マスクの着用をお願いします。
○来館中も、こまめな手洗いや手指の消毒をお願いします。※各所に手指消毒液を準備しております。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオープニングイベントの中止を行う場合があります。詳細と最新情報については当館ホームページまたはSNSをご確認ください。